令和８年９月３０日 市長記者会見（※会見の内容を一部要約しています。）
日時：９月３０日（水）１０時３０分～１２時００分
場所：佐賀市役所２階　庁議室
出席：坂井市長

【司会】
ただいまから市長定例記者会見を行います。

【市長】
本日はお集まりいただきありがとうございます。9 月 30 日の記者会見を始めます。

≪バルーン｜バルーンフェスタ≫
バルーンフェスタまで、いよいよあと 1 か月、10 月 30 日からとなりました。
「今年も、飛ぼう。全員で。」というキャッチコピーで、15 の国・地域から 123 機のバルーンが佐賀に集結します。
パイロットや来場者の皆さんと全員で、気持ちや心を一つに今年の秋を盛り上げていきたいと思います。

≪バルーン｜会場アクセス アップデート≫
バルーンフェスタをさらに快適に楽しんでいただくため、会場アクセスをアップデートし、新たに 4 つの交通対策を実施します。
1 つ目が、昨年度も 3,100 台の臨時駐車場を確保していましたが、これに新たに 500 台増設、吉野ヶ里町新庁舎と佐賀市民運動広場に増設します。
最寄り駅から鉄道利用で来場できる受け皿となることで、会場周辺の交通負荷を分散させたいと思います。
2 番目が会場北側のオートキャンプ場の駐車場を、事前予約制の車中泊駐車場 98 区画に変更します。
遠方からの前泊者に確実な駐車場所を提供することで、計画的な来場の後押しにつなげます。
3 つ目のキャッシュレス決済も初めての取り組みとなります。
会場北側駐車場に、キャッシュレス決済専用レーンを設けて、来場者の利便性向上につなげます。
4 つ目として、シェアサイクル「チャリチャリ」と連携して、サイクルポートを複数箇所、会場内や周辺に設置していきます。
公共交通からの「最後の移動」を自転車でつなぐという手段にしていきたいと思っています。

スムーズに来場者をお迎えできるような質の高い大会運営へとアップデートしていきます。

≪バルーン｜夜間係留 × ゾンビランドサガ≫
ゾンビランドサガ連携プロジェクト第 2 弾として、「佐賀だからこそ実現できる、特別な夜空の共演」として、バルーンの夜空をゾンビランドサガが彩ります。
11 月 2 日、3 日の 18 時半から、バルーンフェスタの夜間係留をゾンビランドサガ特別バージョンでお届けします。
スペシャル MC として、11 月 2 日には水野愛役の種田梨沙さん、ゆうぎり役の衣川里佳さん、11 月 3 日には二階堂サキ役の田野アサミさん、星川リリィ役の田中美海さんが参加されます。
佐賀を代表するイベントと、佐賀を舞台にしたアニメが融合し、まるで映画のワンシーンのような 2 日間限定の特別な空間を創り出します。
バルーンの来場者には作品の世界観を感じていただき、アニメのファンにはバルーンの圧倒的なスケールを体感していただくことで、お互いのファンが新しい佐賀の魅力に出会う相乗効果を期待しています。
国内外から多くの方が訪れるバルーンフェスタを通じて、佐賀だからこそ実現できる特別な夜空の共演をぜひ多くの方に楽しんでいただきたいと思っています。

≪バルーン｜２０２６サガ・ライトファンタジー≫
サガ・ライトファンタジーは今年で 38 回目となります。
10 月 29 日から開催し、期間が 2 月 14 日までで、過去最長 109 日間にわたってイルミネーションで装飾します。
近年の実績を踏まえ、街なかへの集客好機に合わせて、開催期間を柔軟に展開していきます。
今回はジブリ展の開催期間が 11 月 3 日から 2 月 14 日となっていますので、これに合わせることで、賑わい効果を最大化していきたいと思っています。
佐賀駅南口からの中央大通り約 1.6 キロをイルミネーションで彩り、周辺 6 か所にはカラフルなスポット装飾を配置します。
初日 10 月 29 日にはバルーンフェスタ前夜祭を実施し、パレードやストリートパーティーを展開して、翌日の大会開幕に向けた気運を高めていきます。
来訪者の回遊性を高め、この時期ならではの佐賀の魅力を発信していきたいと思います。

≪バルーン｜姉妹都市 バルーンチーム 歓迎≫
10 月 27 日から、姉妹都市を締結しているニューヨーク州のグレンズフォールズ市のバルーンチームをお迎えします。

姉妹都市のきっかけは、ちょうど 40 年前の 1986 年に、グレンズフォールズ市民が佐賀のバルーンフェスタに参加し、大会の素晴らしさに大変感動されて、帰国後に地元団体に働きかけたことによるもので、締結後 38 年になる、バルーンが結んだ絆です。
佐賀では 12 年ぶりの再会となり、受け入れは 4 回目です。
佐賀市のオリジナルバルーンの夢さがバルーンを使用してフライトしたり、ライトファンタジーのパレードにも参加したり、様々な形で市民と交流を深めていただく予定です。
今回は、アメリカ建国 250 周年記念バルーンもフライトするということで、在日アメリカ大使館がアジア最大級の熱気球大会であることを評価され、こうしたフライトにつながりました。
直接顔を合わせ、言葉を交わす交流を通して、姉妹都市の絆をしっかり育んでいきたいと思っています。

≪バルーン｜街なか サテライトイベント≫
街なかでサテライトイベントを開催します。
多彩なイベントが盛りだくさんとなっています。
目玉となるのが、サガマチ秋遊フェスでの、初企画となるステージイベントです。
10 月 31 日から、音楽・ダンスイベント、50 名ほどが参加するのど自慢大会、参加型ゲームイベントを日替わりで展開して、幅広い世代を呼び込んでいきたいと思っています。
松原神社では「はらぺこマルシェ」を開催し、おいしいグルメ・スイーツが集結します。
11 月 3 日にはバルーンフェスタと初コラボとなるサガン鳥栖のパブリックビューイングも商工ビルで行います。
対戦相手は同じく J1 復帰を目指す湘南ベルマーレで、10 月 10 日から観覧者 150 名を募集します。
多彩なコンテンツを連動させ多くの方を街なかに呼び込んで、賑わいと活力を生み出していきたいと思っています。

≪公園｜神野公園 ナイトタイム エコノミーツアー≫
神野公園ナイトタイムエコノミーツアー初めて開催します。
前回、特別鑑賞イベントをご覧になった方も多いと思いますが、人工雲海やこの神野公園の歴史・景観の学びにも大変好評で、飲食も充実させてほしいというような期待もありました。
これをさらに新しい取り組みにつなげていきます。
ナイトタイムの魅力をさらに引き出すため、オープントップバスでの非日常的な移動に始まり、鍋島家ゆかりの鷹匠の世界を体験していただき、佐賀の食とお酒を神野のお茶屋でゆっくりと堪能いただくもので、そこでは歴史解説も、学芸員によって歴史解説もついてきます。
帰りはライトファンタジーのイルミネーションをバスの上から見ていただき、ツアー終了後に

は参加者の皆さんから満足度や、また来たいかといったのも検証していき、次につなげていきたいと思っています。
明日 10 月 1 日から申込みを開始しますので、秋の夜長、歴史と光が彩る佐賀の新たな夜の魅力をぜひ体験していただきたいと思います。

≪歴史・文化｜東名遺跡　記念シンポジウム≫
東名遺跡の国史跡指定 10 周年を記念して、10 月 17 日にメートプラザ佐賀でシンポジウムを開催します。
約 8000 年前の暮らしを伝える東名遺跡は、日本最古の湿地性貝塚で、日本最古の編みかごが 700 点以上出土し、国内の出土数の 5 割以上を誇っています。
日本最古級の動植物遺存体も多数出土しており、日本を代表する縄文時代の遺跡です。
当日は基調報告をはじめ、考古学研究者の小畑弘己先生と、土偶女子として活躍している譽田亜紀子さんをお迎えし、縄文文化の奥深い魅力を届けたいと思っています。
そして、令和 10 年秋の開館に向けて、今新たな施設である東名ガイダンス・埋蔵文化財センターの整備を進めています。
自然と共生した先人の知恵を現代に生かす場所づくりを進めていますので、シンポジウムを契機に東名遺跡の価値を広く発信していき、未来の地域づくりを考えるきっかけとしたいと思っています。

≪窓口改革｜窓口案内ロボット「あんなちゃん」≫
窓口案内ロボット「あんなちゃん」が 10 月 5 日午前 10 時からデビューします。
配置場所は本庁 1 階の東玄関から入ったところで、どこに行けばいいかわからない市民の皆さんに対して、案内案内ロボットが、目的の窓口近くの発券機や総合案内に案内してくれるものです。
操作がシンプルなので、高齢者の方や初めての来庁者の方も安心して利用でき、8 か国語に対応してますので、外国人の方も案内できます。
市のイベント情報なども、ホールを巡回してる際に、来庁者にご紹介をしていきます。
ここで、あんなちゃんを皆さんにご紹介したいと思います。

～あんなちゃんデモ～

見ていただいたように、目的のボタンを押すだけでスムーズに案内していただけます。
市役所も広いので、初めて来られた方も迷わず、目的の場所にご案内できると思います。
10 月 5 日午前 10 時から、1 階総合窓口で運用開始イベントを実施します。

今回の実証実験を通じて、ロボットによる窓口案内が生み出す新しい価値を探っていき、誰もが快適に手続きができる未来の窓口を目指して、こうしたロボットとも協働しながら、さらに利用しやすい市役所に進化していきたいと思っています。

≪質疑応答｜発表項目≫

【記者】
「あんなちゃん」についてお伺いします。
自治体がこういう窓口案内ロボットを導入するのは、他に先進事例などがあるかを教えてください。

【市長】
昨年度から「書かない窓口」をスタートし、記載台なども撤去して、空いたスペースも生かして新しい取り組みをできないか検討してきたところです。
2月からは案内ロボット「OriHime」を総合案内に導入したところです。

【市民生活部】
この案内ロボットと同じ機種ものが、宇和島市で稼動されています。

【記者】
こういうタイプのロボットは、全国で2例目という理解でよろしいでしょうか。

【市民生活部】
今こちらで把握しているのは、同じタイプのロボットが宇和島市で動いているということです。
宇和島市に視察にも行かせていただいたところです。

【記者】
基本的なことなのですが、台数は1台でしょうか。

【市長】
1台です。

【記者】
導入の初期投資や経費などはいかがでしょうか。

【市民生活部】
令和 8 年度の予算が約 170 万円で、導入費が約 90 万円、運用費が約 80 万円となっています。

【記者】
バルーンフェスタについては、駐車場やアクセスの確保、特に選手の方がなかなか間に合わない、遅刻しそうになって大変だったといった過去の事例もあったかと思います。
実際どの程度の渋滞が発生するか、本来だったらどの程度の駐車場が必要かなど、定量的な数字をお持ちではないでしょうか。
今回どの程度解消できる見込みなのか、数字的なものがあれば教えてください。

【市長】
数量的な部分としては、臨時駐車場の増設や車中泊区画の新設など対応を拡充していきます。
ご質問のとおり、特に三連休や休日、天気がいいときなどに会場周辺の道路や駐車場が混雑に見舞われてきたことから、車で会場近くまで来なくても良い選択肢を増やす、来場前から移動や駐車の見通しを立てやすくするという 2 点を柱に据えて検討してきたところです。
パークアンドライドを拡充するので、鉄道利用もしていただきたいです。
既存の駐車場と合わせると約 4000 台規模に受け皿を広げていきたいと思っていますので、日によって状況が違うことはあるのですが、会場周辺の混雑の改善につなげたいと考えています。

【経済部】
事前にパークアンドライド用の駐車場を確保し、そこを案内することは、会場付近に滞留する車を減らすという点では大きな意味があると考えています。
過去には競技者の車両が渋滞に巻き込まれるというような事例もありましたが、これも会場周辺に車が滞留することで起きていますので、それを解消する意味で非常に大きな効果を期待しているところです。

【記者】
グレンズフォールズ市については、12 年ぶりに再会ということですが、12 年ぶりに来られることになった経緯については、それこそ建国 250 年が関係あるのかを教えてください。

【市長】

これまで交流は定期的に行っていたところでしたが、コロナ禍による渡航制限などの影響がありました。
佐賀は競技をメインとする大会で、先方のアディロンダックのバルーンフェスティバルはファンフライトを中心とするということで、その大会の性質や運営のスタイルも違いがある中で、今回はお互いの大会の持ち味も踏まえて、グレンズフォールズのバルーンチームの皆さんが、フェスタ部門という競技ではない部門のフライトに、佐賀市のバルーンを使って参加いただくという運びになりました。
少し期間が空きましたが、元々バルーンがきっかけの関係ということもありますので、両市の友好親善をさらに深めるきっかけにつながればと思っています。

【記者】
バルーンフェスタの会場アクセスの周知方法はどのように考えていますか。

【市長】
臨時駐車場などの情報も、公式ホームページなどで随時更新をしていきます。
来場される方に出発前や移動中に最新の駐車場情報を確認していただいて、空いている臨時駐車場を利用していただけるよう周知していきたいと思っています。
キャッシュレスもこれまで現場では現金のやりとりに伴う混雑が課題になっていたことから、今回は新たにキャッシュレス専用レーンを設けることで、利便性を高め、現場の省力化や効率化にもつなげていきたいと考えています。

【経済部】
ホームページなど事前の広報には力を入れていきますし、期間中も随時どの駐車場が今どのぐらい埋まっているかなどの情報も、しっかり流していきます。

【記者】
車中泊専用駐車場の事前予約についてですが、どういったサイトから予約することができるのでしょうか。

【市長】
後日リリースするオンライン専用の申込ページで受付をしていきます。

【記者】

窓口案内ロボットは、5 月から公募していたプロポーザルによるものですか。
あと設置期間はどれぐらいを考えているかといったところをお伺いします。

【市民生活部】
プロポーザルは 1 社から応募がありました。
今年度 3 月末までの 8 ヶ月間配置します。

【記者】
バルーンフェスタの会場のアクセスの件についてです。
もちろんパークアンドライドを拡充することで、会場周辺の混雑を緩和するというのは理解しましたが、そうは言っても市内の方や近隣の方などは車での移動が多くなると思います。
その場合、去年までの動線の確保では難しかったように記憶しています。
例えば、バルーン会場の近くの駐車場やその会場に行く道なども、例えば、臨時でもいいので、一つおきに一方通行にするとか通行止めにするとか、そうしないとシャトルバスや一般の車とご近所の方の車が非常に混んで、お見合いになって車が動かなかったという事態がありました。
そういうものの改善というのはどうなっているのでしょうか。
それと、シャトルバスの本数についてですが、去年も夕方帰ろうと思うともう便がなかったり、バスに乗る場所まで混み合っていて、歩いていくと間に合わなかったりということもあります。
運行時間の延長や便数の増加はどう考えているのでしょうか。

【経済部】
まず、周辺の道路の改善については、周辺の混雑の情報が行き届かなくて、会場周辺に車が集中して混雑するという状況が、来場者が一番多い日などには確かに出てきます。
そういったものを改善するため、事前に会場近くまで来なくてよいパークアンドライドを増やすべきという考えのもと、今回も駐車台数を増やし、JR などの公共交通機関を使っていただくという形で考えています。
こうした対策を通して、会場周辺に車が集中する時間帯をできるだけ緩和したいと思います。
シャトルバスについては、昨今の運転手不足との関係もあり、なかなか本数を増やすというのは難しい状況があります。
これについては、自動車の混雑時に誘導をしっかり行い、なるべく道の混雑を少なくすることで、定時に運行できるような体制を整えていくということが一番大事になってくるところです
また、臨時駐車場からシャトルバスが会場まで出ていますが、バスの走るコース、あるいはどこでどのぐらい人を乗せて効率的に輸送するかといった方法をバス事業者とも考えています。
そういったものも含めて、少しでも改善をしていきたいと考えています。

【記者】
努力されるのはわかるのですが、要するに市内の周辺に住んでいる人にとってみたら事前の調査とかはあんまり関係なくて、日常生活をする中で移動に巻き込まれるので、動線の周知は、市民にもする必要があるかと思います。
シャトルバスに関して、本数が増やせないとかの事情はわかりますが、去年から事態が改善しているとは思いませんし、時間設定がもう根本的に間違っていると思います。
バルーンが終わって帰ろうと言ったときにもうシャトルバスがないわけです。
夜間係留や夕方までのイベントを見ていると、早い時間に切られ、電車も満員で乗れなかったりするわけです。
シャトルバスに関しては小さいものを増やすなど、地域の方や市営バスとうまく知恵を絞ってやっていただかないと、評判を下げることになるかと思われます。
もう少し具体的に改善をしていただきたいところです。
動線の整理も、大会期間中通れない道を確保するなど、ちょっと考えればできそうだと思うので努力していただきたいのですがいかがでしょうか。

【経済部】
シャトルバスは、会場内のイベントに合わせて運行していますので、乗り遅れないようにしっかりアナウンスなどで引き続き周知を図っていき、運行時間も研究していきます。
道路は、確かに一方通行などの規制をかけている部分は周辺道路にあり、「地元の車以外はご遠慮お願いします」という協力依頼看板を設けたりしています。
交通規制はあまり強くしすぎると地元の方にも迷惑をかけてしまうこともありますので、バランスをとりながら最適な方法を研究していきます。

【記者】
バルーンのパークアンドライドを増設することによって、JR に乗れないという事態などは考えられないのでしょうか。

【市長】
渋滞や満車で会場周辺が混雑してるというところが最大の課題ですので、鉄道にスムーズに乗り換えていただけるようにするため、JR ともしっかり連携していって、鉄道の利用で来場できるようにしていきたいと思っています。

【経済部】
JR とも今協議をしています。

鉄道はバスや乗用車に比べると輸送力があることから、鉄道での輸送が、一番効率がいいと判断しています。
JR と協議して、臨時の列車も出していただいていますので、しっかり対応できるように努めていきます。

【記者】
この対策で、平年比で何割ぐらい渋滞を減らせるかなどの数字はありますでしょうか。

【経済部】
何割という数字は申し上げにくいのですが、パークアンドライドで電車を利用されるということで、一定の効果が見込めると期待しています。

【記者】
あんなちゃんの名前の由来はどういったものでしょうか。

【市長】
このロボット自体は「temi」というものですが、市民の皆さんに親しんでいただけるような名前を市民生活部の若手職員が案を出してくれました。案内（あんない）ロボットなので「あんな」ちゃんです。

【記者】
ロボットを導入することで窓口の人数を減らしたり、OriHime に取って代わったりするなど、そういったことは考えられているのでしょうか。

【市長】
OriHime は、7 月末時点で 5,000 件程度の駐車場の無料処理を案内しています。
昼休みなどで一時的にマンパワーが落ちるところを補ってくれています。
あんなちゃんに関しては、市役所も広いですし、発券機も 6 個もあることから、初めて来られた方は総合案内にかなり来られたり、あるいは総合案内に行かない方は迷われたりしています。
そうした来訪される方の負担を減らしていくため、まず今年度導入しているもので、それによって職員を減らすことは今のところ考えていないです。

【記者】
パークアンドライドの件について、昨年鳥栖駅から電車に乗って朝のフライトに間に合うように向かったのですが、そのときに博多から大量の乗客が乗ってきて、鳥栖でも満員になって、確か佐賀駅でもその電車に乗れなくて滞留している乗客がいたというのを聞きました。
今回パークアンドライドでさらに電車に乗るお客様も増えて、朝の時間にかけて集中すると思います。
JR も臨時列車を発車していると思いますが、昨年のような駅で入れないという事態がないように朝の便をさらに増設するという考えはあるのでしょうか。

【市長】
朝に大変混雑するということで承知していますので、JR とも可能な対応など協議しているという状況です。
車の混雑や電車の輸送力をどう生かしていくかということを、全体のバランスを見ていきたいと考えています。

【経済部】
天候と曜日の並びで、おそらく過去最大ぐらいの混み具合だったときのことと思います。
会場周辺も非常に車が多く、JR も乗れないぐらい多かったという状況でした。
同じような事態が起こるかわからないのですが、そういった事態も想定して、JR とも話をさせていただいます。
パークアンドライドについても、混雑するときはどうしても仕方がない部分にはなりますが、他の時間帯も混乱などがないように、全体としてより良い交通体系を確保していきたいと思っています。

【記者】
あんなちゃんが外国語が堪能ということで、現在佐賀市に外国人の方はどれくらい住んでいるのか、ここ 5 年で 2 倍に増えたということですが、最近増えている国などと教えてください。
また、佐賀市職員でこういったベトナム語やネパール語などの言語に対応できる方はどれぐらいいらっしゃるのですか。

【市長】
大事な質問をいただいたと思います。

【市民生活部】
外国人は令和 7 年度末時点で 3,270 名が登録されています。

令和 3 年度末が 1,585 人でしたので,約 2 倍増えています。
特に増えているのがインドネシアの方、次がミャンマーの方になります。
受付窓口には多言語対応ツールのタブレットなどがありますので、お客様が来られたらそういうもので対応していますし、詳しい福祉の相談などの場合、外国語通訳サービスなども活用して、きちんと対応できるようにしています。

【記者】
あんなちゃんの多言語について、今後新たに別な言語などが増えてきたという場合、8 か国語以上に増やす機能はありますか。

【市民生活部】
現在、9 割以上の在住外国人の方をカバーできています。
現在は少数言語を入れていませんが、必要な場合は拡張可能です。

【記者】
パークアンドライドで電車利用ということが出ましたが、昨年のバルーンフェスタの開催中に人身事故の発生などもあったかと思います。
夜間係留に行こうとしていた人たちの時間帯と重なって、足止めになってしまって佐賀駅まで歩いて帰らなければいけなかったという人も出てきていたと思います。
そういった人身事故などが起きた場合の対策などを考えられていますでしょうか。

【経済部】
去年、夜間係留のときに事故の情報が入ってきまして、帰りの時間帯がどうなるかと心配したところでしたが、JR には非常に迅速に対応していただきました。
事故の直後は若干の混雑はありましたが、再開後はスムーズに流れ、ほぼいつもどおりにお客さんの行列がなくなった状況でした。
そうした事例も踏まえてしっかりと対応を考えています。

【記者】
足止めになった人たちの振替輸送など、具体的な話などはこれからになりますか。

【経済部】
事故はいつ起こるかわかりませんので、その瞬間に台数などを確保するのは現実的には難しい

問題があります。
確保できるにしてもかなり時間がかかりますので、今後もそういった事故に対する準備はしっかり行っていきたいと思います。

【記者】
キャッシュレス決済専用レーンについてです。
今回キャッシュレスが増えたことで現金レーンが減ったのか、それとも新たに設置されるのかはいかがでしょうか。

【市長】
昨年はレーンが 6 つあり、いずれも現金決済だったところを、うち 3 レーンをキャッシュレス用に変更予定です。
現金での決済も引き続き可能です。

【記者】
バルーンフェスタ期間中のメイン会場の来場者の数の見込みと、サテライトイベントを含めた佐賀全体の訪問者の人数の見込みがあれば教えてください。

【市長】
昨年度のバルーンフェスタは 83 万 8 千人でした。

【経済部】
バルーンフェスタは、天候状況などで人数が変わりますので、例年 80 万人という見込みを出させていただいています。
サテライトイベントの方は、昨年約 5 万人強の方にお越しいただきました。
今年は 5 万 5 千人程度来ていただけるよう準備しているところです。

【記者】
バルーンフェスタサイトを見ると、駐車場の場所が載っているのですが、ユーザー目線で言いますと、今ここが空いてますとか満車ですとかいう表示があれば、その混んでるところを避けたりすることもあるのかなと思います。

【経済部】

駐車場の状況については、大会期間中 1 時間おきに更新して、駐車場の混み具合を表示するようにしています。

【記者】
バルーンのゾンビランドサガ連携プロジェクト第 2 弾の件です。
発表の中で「作品の世界観を感じていただきたい」というお話がありましたが、今回「ゾンビランドサガ特別バージョン」と銘打ってらっしゃるので、何かコラボならではの特別な演出や企画が、MC の方が来てくださるという以外にも演出などが予定されているのか、来場者に特に注目してほしいポイントなどがあれば教えてください。

【市長】
今回限りの特別な演出を加える構成としており、光と音楽の演出を楽しんでいただき、ゾンビランドサガの世界観に触れていただきたいと思っています。
佐賀を代表するバルーンフェスタが一緒になることで新しい楽しみ方が生まれることを期待していますし、ファンの皆さんはもちろん、初めて来る方にもまた来たい、佐賀っておもしろいと思っていただける機会として、来年 4 月の凱旋イベントの盛り上がりにつなげていきたいと考えています。

【記者】
ゾンビランドサガ関連では、既に発表されている街なか装飾や周遊スタンプラリーの展開というのもファンの皆さん期待が高まっているのと思いますが、今後の企画の追加情報の解禁時期など、現時点でお話いただけるスケジュール感などがあればお願いします。

【市長】
順次発表していきたいと思います。
記者会見の機会も活用しながら、今後取り組みをお伝えできればと思っています。

≪質疑応答｜市政一般≫
【記者】
9 月県議会で県立大の建設費を含んだ予算が可決されました。
改めて県立大に対しての思い入れについて、今回知事選でも争点になっていますので、もし仮に見直しとなった場合といったところもあるかなと思いますので、そこに対する懸念などをお伺

いします。

【市長】
先週 9 月 25 日、県議会で県立大学の施設整備に関する予算が議決されたと承知しています。
佐賀市としても周辺道路や公園などの環境整備をはじめ、立地自治体が担うべき役割を県と連携して進めていきたいと思っています。
県議会で様々な観点から議論が行われたということも承知しています。
大学の設置や施設整備は県が主体となって行うものですが、市としては立地自治体として、地域との調整や周辺環境の整備など、担う役割をしっかりと果たしていくことが重要だと考えていますので、こうした周辺整備の必要性など、地域に丁寧に説明しながら進めていきたいと思っています。
人口減少が進んでいく中で、それぞれの特色や強みを生かしながら、選ばれる大学となっていることが重要だと思っています。
佐賀県では毎年約 3,500 人の高校生が大学に進学しているという一方で、そのうち 3,000 人が県外へ進学している状況にあることから、県内・市内で学ぶ方が増えるということに大きな意義があると思っています。
若者の定着や地域産業の人材確保にもつながりうるということで、それぞれの役割分担の中で若い世代が佐賀で学んで、地域や企業と関わりながら、卒業後も市内県内に定着して活躍できるように、必要な環境づくりや連携に取り組んでいきたいと思っています。

【記者】
10 月 5 日からは臨時国会が召集されますが、消費税減税などに関してはどのように受け止めていますか。

【市長】
9 月 15 日に税制改正大綱が閣議決定されて、飲食料品の消費税率の引き下げや所得に連動した新たな制度が開始となると承知しています。
物価上昇が続いている中で、飲食料品の消費税率を引き下げることは、市民生活の負担軽減につながる政策だと考えています。
一方で、消費税は、社会保障サービスを国と地方が安定的に提供するための財源としての役割も果たしているところです。
消費税収の約 4 割が地方財源で、消費税収の減収は、地方消費税交付金や普通交付税の減収につながり得るため、消費税率の引き下げによる地方の減収に対する代替財源の確保については、国の責任においてしっかり対応を行っていただきたいと思っています。

【記者】
昨今関東で水害が起きていて、内水氾濫、特にアンダーパスや車の移動中での水没事例が発生し、人的被害も生じている状況があります。
佐賀市も内水氾濫への対策は防災の観点から取り組んでこられたと思いますが、こうした事例を見て改めて今後の取り組みについてどのように思ってらっしゃるのかをお願いします。

【市長】
千葉豪雨をはじめとして、関東では豪雨による被害が多発しています。
本市においても、気候変動の影響など踏まえながら、排水対策基本計画を見直したところです。
ポンプ場などの整備を進めるとともに、大雨が予想される際には、気象情報や河川・水路の水位などを確認しながら、必要な水防活動を行っています。
今後も浸水被害の軽減に取り組み、「溜める対策」と「流す対策」を両輪として進めることで、被害の軽減に努めていきます。
短時間豪雨でアンダーパスの冠水リスクが高まる中、自動排水ポンプの設置や道路状況の事前周知など、ハード・ソフト両面での対策が重要と考えています。
市が管理するアンダーパスの 12 か所のうち 10 か所に自動排水ポンプを設置し、年 3 回の動作点検を実施しています。
また、注意喚起のため、水位表示板や電光掲示板を整備するとともに、過去に冠水した箇所には停電時も稼働する発動発電機を整備しています。
的確な情報収集・共有の仕組みづくりが、これまで以上に重要と考えています。
冠水履歴のあるような箇所を対象に、冠水センサーの導入に向けた調査研究も進め、迅速な通行規制につなげ、得られた水位情報をアプリなどと連動させ、周知していきたいと思っています。
ハード・ソフト両面から、アンダーパスの冠水対策についても進めていきたいと考えています。

【記者】
県立大学の件ですが、採決結果が 19 対 17 の 2 票差で、県民への周知など理解を求めることが課題となっていると思われます。
改めて、この僅差の採決結果を含めた受け止めをお願いします。

【市長】
県議会では賛成 19 人、反対 17 人ということで、9 月 25 日に予算が議決され、様々な観点から県議会でも議論が行われ、その中で、人口減少が続く中で学生を確保できるのかといった点も議論されたと承知しています。
人口減少が続く中での学生の確保というのは、大学にとって重要な課題だと思います。

学生を確保するためには、県立大学の特色や強みを明確にして、選ばれる大学になっていくということが重要だと思っています。
これからの時代に必要な人材を育成していくという考えで、県において検討を深めていると承知しています。
大学の設置や中身自体は県が主体で行われるということですが、我々もそういった議論もよく見させていただきながら、今回県議会で審議されて議決されたということもありますので、立地自治体としてしっかり役割を果たしながら、県と連携して必要な対応を進めていきたいと思います。

【記者】
大学自体は県のものですが、周辺道路や公園なども整備して人口増が期待されているかと思います。
今回知事選で対立候補の方が見直しを口にしていて、今回の争点になると思います。
坂井市長は今回の知事選についてどういった立場で動かれるか教えてください。

【市長】
複数の方が立候補の意向を示されることで、それぞれの候補者から具体的な政策や考えが示されていく中で、選挙戦を通じて、県政の課題や将来について十分な政策論議が行われるということを期待しています。
山口知事とは、知事が県政を担ってこられた期間、佐賀市としても様々な課題について県と連携しながら取り組んできました。
今日も街なかイベントの話題なども紹介しましたが、SAGA アリーナで開催されるスポーツやイベントなどにも合わせて、来場者の満足度向上や街なかへの誘客による賑わいの創出・消費拡大など、そういった連携も進めてきたところで、県と市が力を合わせるところで連携してきたので、今後もしっかり連携を進めていきたいと思っています。
知事とも、佐賀市にとって重要な課題について、様々な議論を重ねて、連携してきたところです。
そうしたところで、選挙戦においては県政についていろんな活発な政策論議が行われることを期待したいと思います。

【記者】
西九州大の件ですが、8 月末に西九州大の新学部の学部名と人数の変更を発表する会見が行われ、大学側は市から 2 億円、県から 1 億円の補助についての支援方針の継続を求めているとの発言がありました。
ただ、先日の佐賀市議会の総務委員研究会で執行部からこの学部名などの変更を報告された際、

議員から、予算を通した議員に今回まず説明がなかったことと、概要が変わっているならもう1回白紙に戻して予算を審議しないといけないのではないかという意見が出されました。
今回のこの状況を含めて、今後の方針を教えてください。

【市長】
西九州大学は、令和10年4月の仮称ですが情報科学部の開設に向けて、来年1月に文科省へ設置認可申請を予定されているということで、私の方にも経緯や説明があったところです。そのため、そういった状況を市議会に執行部から説明したところです。
人口減少が続く中においては学生の確保が重要です。市内で学ぶ選択肢があるということは、若い方が佐賀で学び、そして地域や企業と関わりながら卒業後も市内や県内で活躍することができるということであり、重要な意義があると思っています。
そういう中で選ばれる大学になっていくということを期待したいと思いますし、理事長や学長にもしっかり万全の準備をしてほしいということをお伝えしています。
ご質問の予算関係についても市議会にも丁寧に状況を説明しながら、検討していきたいと思います。

【記者】
今の段階で 2 億円についてこのまま進めていくのか、今回の件が学部名などの変更があったので検討することになるのかというのはどちらでしょうか。

【市長】
西九州大学の方からいろいろ状況を聞きながら、議会にも状況をご説明しながら検討していきたいと思います。

【記者】
8 月の平和のサイレンについてですが、細かい範囲で鳴らしたらうるさいという苦情があって、大きい単位で鳴らしたら自分のところに聞こえないという様々な意見があり、担当部局からは今後鳴らす範囲を含めてやり方を検討すると言われたのですが、今回戦後81年を迎える中で今後の市長の方針を教えてください。

【市長】
これ合併前の町村と、旧佐賀市においては本庁で、そして旧町の方では各局で鳴らしていたということで。
そこを、びっくりしたとか、ちょっとそういった声もあったということで、経緯を聞いています。

今回、改めていろんな声がありましたので、今後できる限りその平和ということについて皆さん考えることにつながるような形で、環境のバランス取りながら対応していきたいと思います。

【総務部】
9 月議会の答弁でもお答えしましたとおり、基本的にはその平和の尊さというところを知って、それと生活環境をある程度考えるということで試行的に実施したところですので、この結果を踏まえて考えていきたいと思います。

【記者】
知事選への対応ということで、これまでの山口県政の中でいろいろな問題に対して確かに協力してやってこられましたし、県立大学が立地自治体としても協力していくということで、今後も連携を進めていきたい、そして様々な議論が尽くされるのか政策論議が進められることを期待しているというお答えだったのですが、要するに現政権と引き続き連携していきたいということなのでしょうか。

【市長】
引き続き、佐賀市にとって重要な課題について、これまでも様々連携してきたということであります。
今後も県と連携してしっかり進めていきたいと思います。

【記者】
山口知事と、今度挑戦される吉田さんに、自民党の佐賀県連は結局どちらを推薦ということではなくて両方とも支持ということになりました。
坂井市長のことを応援されている自民党の対応がそういう形なのですが、坂井市長は山口知事でということでよろしいですか。

【市長】
先ほど申し上げたように、県と重要な課題についても、山口知事と様々議論を重ねて連携してきたところです。
市長会で知事にも出馬を要請したというような経緯もあります。
選挙戦自体は、やはり様々な県政の課題や、私のときもそうでしたが、対立候補がいることでより活発な政策論議がされるということもあると思います。
そういった政策論議が行われるということを期待したいと思います。

【司会】
これをもちまして、市長記者会見を終了します。ありがとうございました。